

ペンペン草

宮の台住宅バス停で降り、清瀬中に向かう途中は、アスファルトに覆われた道路にフラワーポットが置かれ、歩道を彩ります。歩道と車道の境目には、ドウダンツツジが植栽されています。小さな提灯のような花に、心が癒されます。



車道と反対側を見れば清瀬中の校舎。桜とアブラナ科の植物の共演です。場所が場所ならピンクと黄色のコラボは、観光地になっていたかも。春は草花が受粉を助ける虫たちを呼ぶために、精一杯、自身の魅力を発揮し、花弁を拡げます。草花が放出する精一杯のエネルギーを受けながら、歩を進めます。

ふと視線をおろすと、一見、葉に見えるハート形の実を携えたペンペン草が咲いていました。小さな白い花は何ともかわいらしい。正式名称は「なずな」です。春の七草に挙げられます。健康と豊作を祈り食す七草がゆの素材となることは知られていますが、かつては、煎じ薬として利尿、解熱、動脈硬化予防等に使用されたというから驚きです。何故ペンペン草というか、調べてみると、ハート形の果実が三味線のバチに似ており、奏でる音「ペンペン」が由来ともいわれるとありました。これまた驚きです。何気ない風景の中に、歩みを止めて眺めてみると、新たな発見がありました。



「よく見れば なずな花咲く 垣根かな」

芭蕉

見ようとしなければ見えない景色はたくさんあります。清瀬中の生徒の魅力をたくさん見ようと、今日も校門をくぐります。

